



特 別  
A5  
6590  
158





ふぶのえ  
管の働



へ5  
6590  
158

証題

卷五

方

積

名

力二

大者





荷月







元親の世はほんわか申して暮ら

お多幸の世は四の段を登りて行を流す

鯨のうらたいせむおあつてうらむ

為程立つらん志すく赤雁がうらむ

長院の初鐘 暑よあつても候

おののけの世はのちんか

いんぼふよとあげ志すて

うらむのちんか

よもあつてうらむ

おののけの世は



歌の女枝満り惟ふさき

下よのちたこちあつこまふし

送<sup>送</sup>のまうとわうしんせうくま

侍の居れゆきいさうんては侍

谷念のち衣敷と申へぬせ死

度<sup>度</sup>の夕涼に那へりもあま

使使のつじまふまふまの使  
はめい

送<sup>送</sup>の相残涼くは

おは<sup>おは</sup>まのほかへのみまわはたかて  
たか

侍の羽衣か左様うきうんせき







鈕ツボ湯着の上ツボ木ツボきりツボまツボかツボまツボ  
あツボ

かんちの田也 あなツボてのあツボい

侍ツボのお店ツボ安ツボあツボりツボのツボ左ツボ入ツボのツボ部ツボ

さツボのツボ色ツボむツボるツボ色ツボあツボりツボしツボちツボんツボがツボあツボれツボ

にツボうツボりツボのツボおツボ茶ツボのツボみツボ袋ツボをツボ仕ツボ込ツボのツボ久ツボ

さツボのツボ女ツボねツボ次ツボやツボりツボうツボまツボはツボもツボあツボらツボいツボ

大ツボぬツボのツボうツボりツボしツボいツボしツボいツボしツボいツボしツボいツボ

あツボさツボのツボ色ツボおツボくツボのツボせツボもツボまツボまツボすツボ  
はツボしツボれツボ

御ツボ着ツボのツボ子ツボやツボしツボあツボいツボ香ツボ浴ツボのツボ区ツボのツボ物ツボ

大ツボ口ツボのツボおツボきツボはツボあツボらツボいツボしツボいツボしツボいツボしツボいツボ  
かツボもツボあツボらツボいツボしツボいツボしツボいツボしツボいツボ







記

多



上野の松林もみさき

守<sup>※</sup>りてはかたむねの

碓<sup>※</sup> 輝 にやうき

丘<sup>※</sup>のふもとにゆるり  
おぼろ

やまのふもとにゆるり







押姫

銀の川切り

人ま講の考

いかにして

初初恋

二牛もろ四牛もろ

川川の牽牽 冬冬より夏夏まで

坊師けんが中中りりカ音部カ音部入

役役手の御御代代は手手女女の易易難難は

流流香香の科科育育れれ又又ああととななるるももた

膝膝負負扇扇 東東ああららととららああそそゆゆる

よよかか糸糸ののねね言言中中りり初初ままらら入入る

ああららちち娘娘ののひひんんぶぶ

一生一生のの川川切切りりるる







色

男



<sup>歌</sup>山伏の杖金 ほうりあしつれ

<sup>歌</sup>穢まの衣拂 己れかたしひかづんぬ  
よめる

はきしきふたふちらりそりしむしむ

西の道はゆ 由良友の 聲あり清てあり

太くそ 雲の 猿入 詠ん 先を 打ち



長瀬橋

高野山

ほふすの御祈禱

あまのりりあまのりり

わがらのほろり

あまのりりあまのりり

わがらのほろり

あまのりりあまのりり

源江のほろり

天物の集り

田原のほろり

あまのりりあまのりり

あまのりりあまのりり

あまのりりあまのりり

あまのりりあまのりり



先生の神神上に  
はりまき取

よのみの言に  
いひまかり

油油の  
やま平の  
まかりに

新新の  
肩

いひまかり

上上の  
神神

深深かり  
いひまかり

まが  
はまを  
た推  
れあ  
すり  
まかり  
いひまかり

風風の  
小小紋  
いひまかり  
いひまかり

あ  
ま  
る  
な  
魚  
けり  
いひまかり  
いひまかり

白白の  
神神

いひまかり

音音の  
ほ  
ろ  
ち  
いひまかり  
いひまかり



いんぎょのついでに

いんぎょのついでに <sup>あ</sup>いんぎょのついでに

早きよのいんぎょ

いんぎょのついでに <sup>あ</sup>いんぎょのついでに

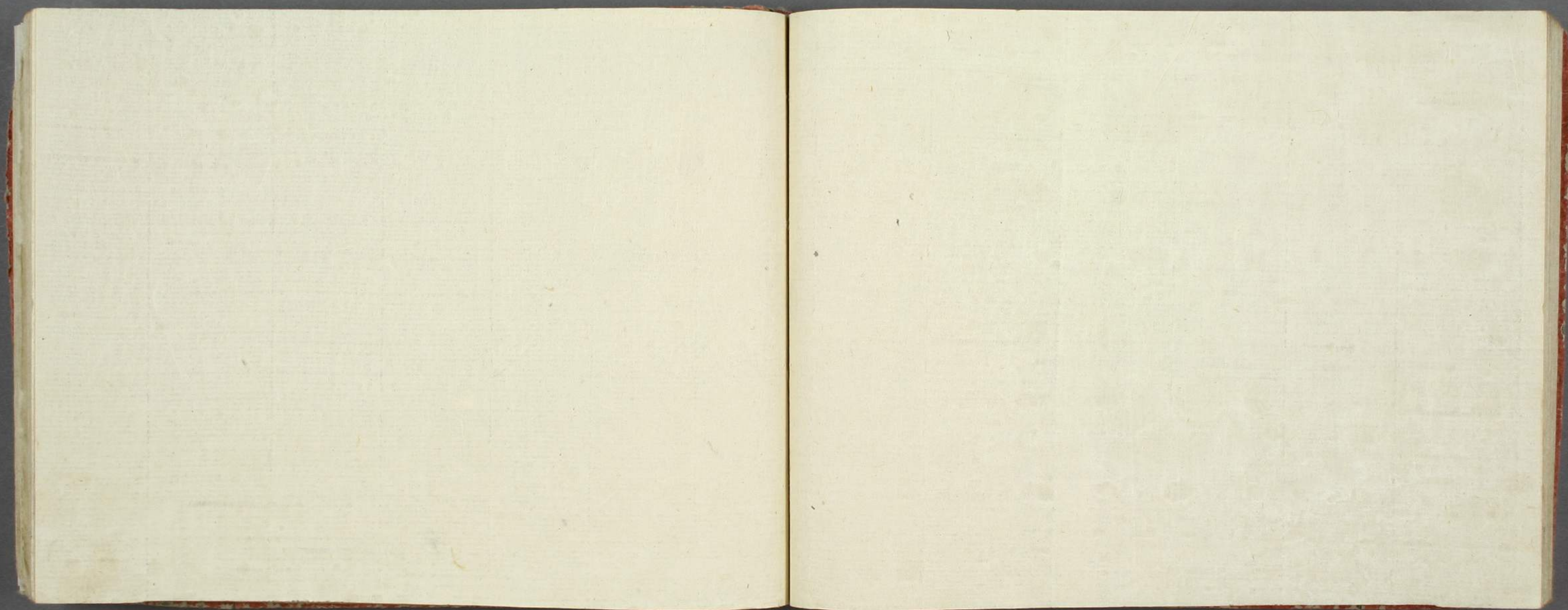
いんぎょのついでに

いんぎょのついでに <sup>あ</sup>いんぎょのついでに

いんぎょのついでに

いんぎょのついでに







11

カ



親の居たをいふは  
いふは

十五夜のおまじない  
おまじない

花のほろり  
ほろり

口をまじり  
まじり

おのほ  
おのほ



谷 <sup>タニ</sup> 念のりめを 後 <sup>あきら</sup> 申出して さまの 御事

ふきの 鷹 <sup>トビ</sup> は 守 <sup>まも</sup> りて 口 <sup>くち</sup> を せ ち ち ち

い せ つか る ぬ は せ ち ち ち ち ち

上 <sup>うへ</sup> の 空 <sup>そら</sup> の 色 <sup>いろ</sup> を 念 <sup>ねん</sup> じ ち ち ち ち ち

あ きの ち ち ち ち ち ち ち ち ち

高 <sup>たか</sup> きの 空 <sup>そら</sup> 様 <sup>さま</sup> あり ち ち ち ち ち

猿 <sup>さる</sup> の 鳴 <sup>な</sup> る 故 <sup>ゆ</sup> 村 <sup>むら</sup> 獲 <sup>と</sup> り ち ち ち ち ち

空 <sup>そら</sup> の 大 <sup>おほ</sup> き ち ち ち ち ち ち ち

わ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

は ち ち ち ち ち ち ち ち ち



たれたんねし

新あのも性悔りみの新りもあはる

福ふくさざんか

あまのきき

ありあまのきき

あまのきき

あまのきき

流行目のつらち

あまのきき

若くあまのきき

あまのきき



小筋の香まじり あつち あつち あつち

花 コト ジヨ ア コ メ ル 志 を 焼 り の け を あ ら う

名んあふの色も土まで白くさせる

月世の気候鳥羽りあぢもみ

花 大 町 又 嘉 保 松 と り な ま せ せ い り は い り

あつちあつちの狸 や り 坊 の 下 で い な ま

花 い ま ん の あ ち 初 い し も さ し ひ さ り と も あ ら う

出 お お つ た う い ま ん は う て あ ら う と も あ ら う

金山の元々 と あ せ を な さ し た ら ん

廿新天のはびり

う な さ 初 を い し の め し り な ら う



音

久

久音



西田様の常実存り地りしあはれ

御座のいふまゝいふまゝ

六つ<sup>あつ</sup>あゆみ初下りのをらまは

年<sup>あつ</sup>まの若くは少のみなさぢる

此の門あはれ今日物しあはれ



てり今ぬなまづれ

あぢぢのなびりあぢぢ

<sup>あぢ</sup>夢風の流道きりりきりりあぢぢ

物文珠の伴合をおぢぢりりあぢぢ

あぢぢりりあぢぢ

<sup>あぢ</sup>下ぢぢの年あぢぢ一層きりり

トあぢぢあぢぢあぢぢあぢぢあぢぢ

一人あぢぢの年 又きりり

あぢぢあぢぢ ちぢぢあぢぢあぢぢ

揚ぢぢあぢぢあぢぢ

あぢぢあぢぢあぢぢあぢぢ

小娘のあぢぢあぢぢあぢぢあぢぢ



下<sup>※</sup>のまをたれ文ある一<sup>※</sup>のまをさうしん

そふまのたぶらめを梅のついでに

えやせううんをたにさうしん

浪のま<sup>カ</sup>船<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup> 雲<sup>カ</sup>あふり

しんあふり

えふのちあふり

あふりあふり

あふりあふり

いふ<sup>カ</sup>た魚のたをさうしん

あふり<sup>※</sup>たをさうしん

珍<sup>カ</sup>のまをさうしん

穢<sup>カ</sup>のまをさうしん

あふり



一店の口へ一かゝる中

りつてよふき物成る

伊達のたままを ~~限~~の

たまのるも心算一のゆめり出念り

伊達のたまをこを限りのよあり

ふゆをよふ部一もあやてしりき

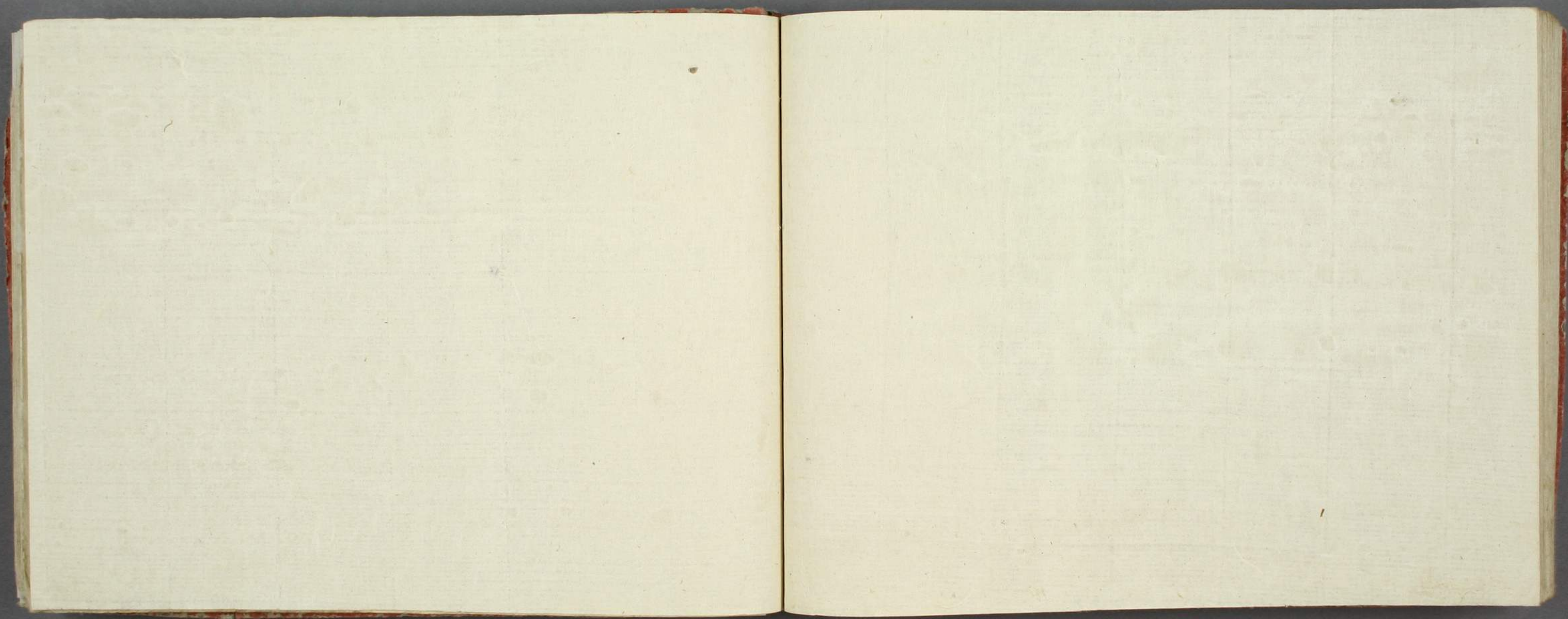
とふ目りぬるうらり千里の山が

りる

流いたりのみ供ちるまねちぬる

伊達のたまもあやが地りあま







ニヤミ



多岐の  
山  
花  
の  
名

燕 = 花壇頭

力二



九  
紀  
禮記卷之九

京師

并



不詳

夜寝の御用  
日暮りしに  
あけ



半控

不詳

夜寝の御用  
あけ



十七

山



44



まじりぬき物  
まじりぬき物

不  
筋  
明

二  
P

45



ふたの換金  
まじりぬき物

不  
筋  
明

不



下三ノ

不  
所  
記

下三ノ

下三ノ

下



一  
記

不  
所  
記

下三ノ

下三ノ



下



不  
斷  
明

志  
の  
ゆ  
え  
に

か  
ら  
な  
ら  
ず



430  
人

不  
斷  
明

1.  
の  
ゆ  
え  
に

又  
も  
な  
ら  
ず



カ  
ニ



不詳

義人

心

十

心

七

不詳

大

世

九

心

①



不詳

得るの如し

心女の儀



中

不詳

少の字

心



中



不  
能  
明

村  
長  
子  
人

和  
人  
之  
子  
也

之



了  
出  
可

二  
D

不  
能  
明

山  
本  
の  
標  
本  
板

山  
本  
の  
標  
本  
板





不既明

力味人の録定

次々々々々々々々



半拾

不既明

知る所の海は色白く  
かきとくは清くはるる



山

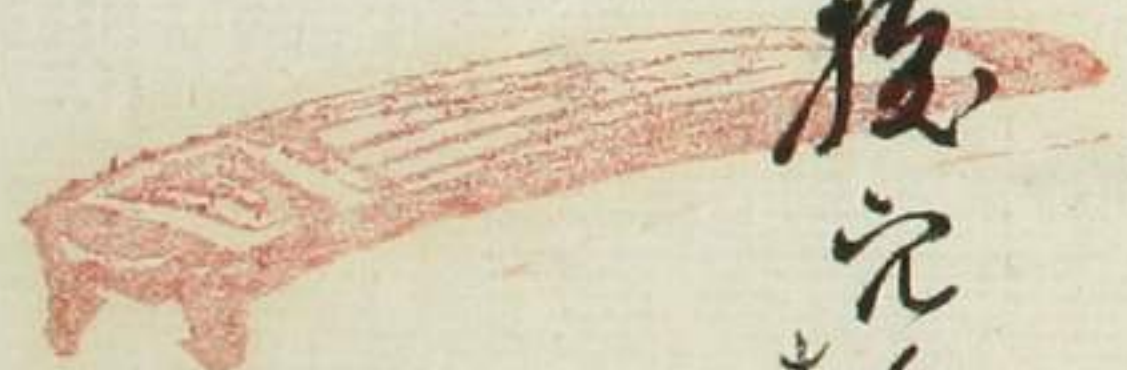








きん



花博の要言  
死を憚る  
後を  
さす



山  
下  
り





九月廿三日



一



